

学習評価（通知表）について

本資料では、学校における学習評価のあり方についてお伝えし、通知表を読んでいただく際のご参考にしていただきたいと思います。また、参考となるHPもご紹介しておりますので、さらに詳しく知りたい方はご覧ください。ご不明な点等ございましたら、各担任までお気軽にお問い合わせください。

新しい時代に必要な資質・能力の育成

学びを人生や社会に生かそうとする

学びに向かう力・人間性等の涵養

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

生きて働く知識・技能の習得

何を理解しているか
何ができるか

未知の状況にも対応できる

思考力・判断力・表現力等の育成

理解していること・できることをどう使うか

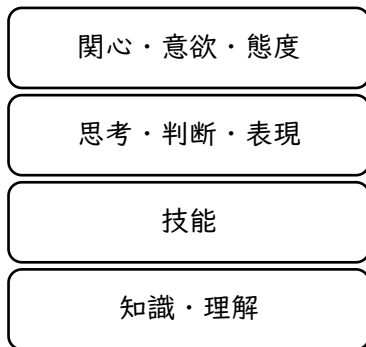
学習する子供の視点に立ち、育成を目指す資質・能力の要素を三つの柱で整理しました。

《参考》学校教育法第30条第2項

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

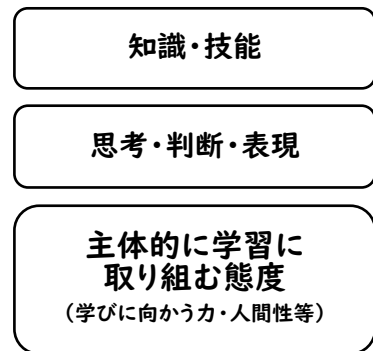
学習評価の充実

〈従前の学習指導要領〉



4 観点（国語のみ 5 観点）

〈現行の学習指導要領〉



3 観点

「知識・技能」の評価の方法

「知識・技能」の評価の考え方は、従前の評価の観点である「知識・理解」、「技能」においても重視してきたところです。具体的な評価方法としては、例えばペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善を図っています。また、児童生徒が文章による説明をしたり、各教科等の内容の特質に応じて、観察・実験をしたり、式やグラフで表現したりするなど実際に知識や技能を用いる場面を設けるなど、多様な方法を適切に取り入れていくこと等も行っています。

「思考・判断・表現」の評価の方法

「思考・判断・表現」の評価の考え方は、従前の評価の観点である「思考・判断・表現」においても重視してきたところです。具体的な評価方法としては、ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループや学級における話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなど評価方法を工夫しています。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価の方法

具体的な評価方法としては、ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や、児童生徒による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価する際に考慮する材料の一つとして用いています。その際、各教科等の特質に応じて、児童生徒の発達の段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、粘り強い取組の中で自ら学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価を行っています。

《参考HP》独立行政法人教職員支援機構「新学習指導要領に対応した学習評価」